

小さき兄弟会総本部

再編と再構築

小さき兄弟会総理事会による指針



ローマ 2011年

小さき兄弟会総本部

再編と再構築

小さき兄弟会総理事会による指針

ローマ 2011年



はじめに

親愛なる兄弟の皆さま、

主が平和をお与えくださいますように！

本会のすべての管区（構成単位）は、時の流れと時代の要請によって変化する現実を生きています。管区（構成単位）の中に私たちが築いている組織は、相対的で暫定的なものですので、それゆえに、常に福音的生活とミッションのために役立つものでなくてはなりません。

私たちは、社会の新しい課題に対して次々に新しい福音的な答えを出すようにと求められるような変化の激しい時代に生きています。しかも、多くの管区（構成単位）では兄弟たちが、働き過ぎにより身体的にも精神的にも疲弊しています。その結果、新しい福音的な課題に対して新たな答えを見出せずにおり、そのために、私たちの「生活様式」の優先課題を中心とした福音的生活の本質的な質に集中することが前にもまして困難になっています。

また、本会のほとんどの部分で、管区間の協力、構成単位や活動、そしてさらに重要な私たちの生活と福音化するミッションの再構築（restructuring）の必要性が増しています。このことについて、2009年の総集会の総括文書は次のように述べています：

私たちのあり方と管区（構成単位）の「再編」（realignment）は、閉鎖や合併などを含むのが普通です。これは見直しと

再構築（リストラ）の一部です。これは苦難を伴うプロセスですが、その中に復活の恵みを発見するように、より素朴でより繊細な形で、しかし、より預言的で確かにもっと小さき者として、自分の居場所に何らかの意義を見出すように求められています。私たちの会においては、これはかつてないほどはっきりした現実であり、それは私たちに視野の狭いメンタリティーを克服し、管区を越えた見通しと管区長協議会及び会への帰属意識を高めるためのまたとないチャンスを与えてくれています。

これらの再構築のプロセスがさまざまな管区（構成単位）や管区長協議会で実行されているからこそ、前回の総集会は総理事会に対して、この問題を検討し、本会に「福音的で宣教者的な生活により大きな活力を与えるという視点から、そうしたプロセスを支えるための指針」を提供するように要請したのです（総集会の指令 47）。従って、ここでご紹介するものは、シンプルで柔軟性のあるエイド（補助資料）であって、細部までを定めるものではありませんが、本会の各管区（構成単位）や他の修道会の体験を基本としております。

これらのプロセスにおいて、主がすべての兄弟を照らし、私たちの生活の福音的な質と証しと個人および兄弟会の宣教者としての熱意を高めるという目的を達成することができますように！

2010年11月13日
アルカラの聖ディエゴの祭日に

小さき兄弟会総長
兄弟ホセ・ロドリゲス・カルバツリヨ、ofm

Prot. 101678

指針

2009年の総集会の指令47 「再編成と再構築」について

「総集会は、管区の再編と再構築という問題について、その目的と方法と類型を明らかにしつつ、今後も継続的に検討するように、また、福音的で宣教者的な生活により大きな活力を与えるという視点から、そうしたプロセスを支えるための指針を提供するように、総長と総理事会に要請する。」

■■ 1. このテーマの重要性

ここ何代かの総長たちは、諸管区の再構築の重要性と必要性を明確に表明してきました。たとえば、

- ◇ 「私たちの共通の未来に役立つ連帯の文化」を育むことが必要です（ヘルマン・シャルック、1992年）。
- ◇ 「管区間の協力は本会の未来です」（2003年総集会）。
- ◇ 「私たちのカリスマの重要な側面を磨き、兄弟性のしるし（*signum fraternitatis*）となるためには」管区間の協力が必要です（ホセ・ロドリゲス・カルバリョ、2004年）。
- ◇ 重要な関心事とは、既存の組織を残すことではなくて、私たちのカリスマが生き続けることを保証することです。

■ ■ 2. 用語

使われている用語の意味：

- a. **再構築 (Restructuring)**：本会の諸管区（構成単位）内のさまざまなタイプの組織を再調整するプロセスのこと。
- b. **再編成 (Reorganizing)**：一つの管区内の活動、仕事、活動の場（修道院など）を再調整すること。それは、それらを新しいニーズや状況に直面するのによりふさわしいものにするためです。
- c. **管区間の協力**：共通の利益のある何らかの活動において、二つあるいは三つ以上の管区が協働すること。たとえば、初期養成共同体、一般の人々を対象とした宣教企画、新しい形の福音化のための新しい兄弟共同体など。
- d. **諸管区（構成単位）の統合 (Union)**：一つの新しい管区をつくるために、二つあるいは三つの構成単位を合併すること。
- e. **成長のための再構築**：成長し、他の管区（構成単位）を生み出す諸管区（構成単位）。
- f. **再建 (Refounding)**：これは、福音を私たちの生活、兄弟共同体、管区組織の基盤と位置付けることにより、福音から出発することの緊急性を示しています。
- g. **再活性化**：この用語は再建と同義語で、その意味するところは、福音的な生活の質と兄弟及び兄弟共同体の証しの質を向上させること。これこそは、再構築と再編成のすべてのプロセスの主目的なのです。

■ ■ 3. 理由

1) 再構築に抵抗があるいくつかの理由

- a. その管区には守るべきそれなりのアイデンティティーがあるから。
- b. 活動の場を減らすと、人々と接触する機会や場所が減り、その結果、司牧的なかわりが弱体化し召命が減少するから。
- c. 修道院の閉鎖は、死に屈服することになるから。

2) 再編・再構築する理由

- a. 急速に変化する時代では、福音の賜物を生き、それを小さき兄弟として世界にお返しすることを大事にするために、継続的な識別と、具体的な選択の真剣な見直しと、「在り方と証しについての未知の道をあえて取ること」(LSR 33)を必要とするから。
- b. 私たちの生活を絶えず見直すことが必要なのは、特に私たちの活動の場に**無気力の諸徴候**が見られるから (SAG 35)。
- c. 再編成と再構築が必要なのは、召命が減っているなどの現実的な理由からだけでなく、特に本質的なことに集中するのを妨げる仕事や活動や修道院が多すぎるから。
- d. 組織の見直しは必要です。組織が常に私たちの生活とミッションの役に立つために。
- e. 他者に心を開くこと、とくに諸管区 (構成単位) や本会の中でも最も貧しい構成単位に対する責任感を持つため

になくてならないことです。

■ ■ 4. 再編成と再構築の目標

今日、時と場所のしるしを通じてなされる神の呼びかけに応えるためには、諸管区（構成単位）は次のような目標を心に留めて、再編成と再構築のプロセスへの道を整えなくてはなりません：

- a. 兄弟たちと兄弟共同体の福音的生活の質と証しの質を向上させること。
- b. 「新しい福音化」の新しい形態のための若さに満ちた新しいエネルギーのために道を整えながら、福音的で宣教者的な生活に活力を与え、**諸国の民へのミッション**（*missio ad gentes*）を再開すること。
- c. 現代社会から突きつけられ、本会が「時と場所のしるし」に照らして（BGG 29 参照）もっと注意を向けたいと願っている（BGG 14 参照）挑戦と緊急の課題を受け入れること。

■ ■ 5. 再編成と再構築の基準

再構築は、私たちの福音的な生活の再活性化、すなわち立て直しを視野に入れたものでなくてはなりません。そのためには、次のことが必要です。

- a. 「重要な優先課題」を尊重すること。つまり、小さき兄弟である一人ひとりがいかなる活動や場所よりも優先す

るということ、そして、「することよりも在り方に、活動よりも生活に常に重点を置くべき」(SAG 36) ということです。

- b. 「さまざまなタイプの活動と活動の場（在り方）の優先順位について徹底的に検討すること」(SAG 36)。それは、どの「活動の場を維持し、開設し、あるいは閉鎖するか」（ホセ・ロドリゲス・カルバッリョによる総集会への報告書 2009 年英語版 p133 参照）を理解するためです。
- c. プロジェクトを段階的に練り上げること。
- d. 一地域での活動の場の配分だけを考えるのではなく、いのちの使者として地方の現実をしっかりと捉えること。
- e. さまざまな分野で管区間の協力の試みを大切にすること。たとえば、初期及び生涯養成、青少年への司牧的かわりと召命促進活動、修道院長の養成、霊的修養、一般の人々を対象とした宣教企画、人々を受け入れる歓迎と分かち合いの新しい兄弟共同体。
- f. これらのプロセスを兄弟共同体や兄弟たちの祈りの中に取り入れること。

■ ■ 6. 方法

- a. 諸管区（構成単位）と管区長協議会で「再評価と識別の期間」を承認すること。
- b. 兄弟たちの間に連帯の精神、本会への帰属意識、率直さ、管区間の協力の精神を育むこと。
- c. 兄弟たちの間に再編と再構築に対する積極的で建設的な

態度を育み、兄弟たちが現在をカイロス（かけがえのない一時）として捉えることができるように助け、彼らの生活の中心を福音とフランシスカン・カリスマの価値に置きつつ絶えず識別に向かって励ますこと。

- d. 個人と兄弟共同体を刷新（再建）すること（SAG 36）。
- e. 生涯養成及び生活とミッションのプロジェクトにおいて、本会の優先順位を守ること。
- f. 青少年への司牧的かわりとし召命活動を促進すること。
- g. 初期養成を見直すこと。
- h. 修道院長を養成すること。
- i. 生活の質を高め、「召命に対する応答と、生活とミッションの福音的プロジェクトを再活性化する」ために（SAG 36）活動や仕事を見直し、減らすこと。
- j. 管区間の協力体制の強化：
 - ◆ 召命や青年のための使徒職、初期養成、福音化、ミッション、正義と平和といった管区間共通の活動に力を注ぐこと。
 - ◆ さまざまな管区を統合、合併すること（SAG 31, 37 参照）。
- k. すべてのプロセスを導くべきもの、つまり、現実主義、明晰さ、大胆さ、将来のビジョン、を常に心に留めておくこと。

■■ 7. 再構築の類型：指針

1) 発展のための再構築

諸管区（構成単位）は、その生活をさらに発展させるために、「再構築」され、再編成される必要が増えています。従って、

- ◆ 従属分管区は自治分管区に、宣教地区は従属分管区になることができる。
- ◆ 管区はもう一つの管区、または宣教地区、もしくは自治分管区を設立することができる。

新しい管区の設立は総則の 120 条、124 条に規定されています。

新しい自治分管区の設立は、総則の 121 条、124 条、125 条、128 条に規定されています。

- ◆ 新しい管区や自治分管区が設立される前に、養成、統治、協力、経済的基盤への必要条件を満たした本会の生活とミッションを遂行できる可能性があるかどうかを確かめなければならない（総則 120 : 1 参照）。
- ◆ 兄弟たちや修道院長の最低人数の要件を満たすことのほかに（管区のためには、40 名の荘厳誓願者と 6 名の修道院長が必要；総則 120:2 参照、自治分管区のためには、25 名の荘厳誓願者と 4 名の修道院長が必要：総則 121:2 参照）、「本会の将来の発展のために十分な根拠のある希望」（総則 121:1）が必要。

宣教地区の設立は総則の 127 条と 128 条に規定されています。総長直轄の宣教地区は、兄弟たちを修練院に受け入れ、誓願を認めることができます。彼らはその宣教地区に入会することになります。

2) 内部を再構築すべき諸管区（構成単位）

すべての管区は人員の減少のためにさまざまな困難に直面しています。最大の共通対策とは、**緊急事態**への対処です。それはしばしば個人を犠牲にしたり、兄弟共同体の生活の質を犠牲にしたりすることがあります。しかしながら、もっと大切なのは、状況に左右されずに、宣教者的な**緊急性**に対処する術を知ること、その管区の未来を見つめる**開かれた視点**を持つこと、活動と仕事を計画する術を心得ること、そして適切な**戦略**を見出すことです。

これらの組織（仕事や不動産など）は次の四つのカテゴリーに分類されます：

1. 手放すことができないがゆえに、存続させるべき組織。
2. 改造したり、改変したり、用途を変える必要のある組織。
3. 新しいニーズに対する新しい答えとして生み出すべき新しい組織。
4. 手放すべき組織。

識別と先見性と勇気をもって行われる**内部の再編成**とは、重要性を兄弟共同体の活動の場（在り方）に戻すという目標と、それらの活動に新たな「宣教者」精神（missionary commitment）をもたらすという目標をもって管区を再構築することを意味します。

すべての管区は、**繁栄している管区**も含めて、**内部の再編成**を

必要としています。生活の質を高めるのに、特に新たな福音化を目指してそのエネルギーを解放するのに、ふさわしい状態を確保するために、すべての管区がこのプロセスを辿らなくてはなりません。

3) 管区間の協力に対してオープンな諸管区（構成単位）

一つの選択をすること、あるいは、以下のしるしとして一つの戦略に従うことの例をあげます：

- ◆ 管区間の協力；
- ◆ 管区間及び兄弟会全体との連帯；
- ◆ 共通の未来のために働くこと；
- ◆ 兄弟性のしるし（*signum fraternitatis*）を証しすること。

最も重要な分野は；

- ◆ 初期養成（召命促進活動、共通の養成修道院や神学院、文化センターなど）。
- ◆ 生涯養成（修道院長の養成、ミッションのための養成、荘厳誓願宣立後 10 年以内の兄弟の同伴、よく企画されたセミナーなど）。
- ◆ 連帯と「人々の間に在る」ミッション（*missio inter gentes*）の共通プロジェクト。
- ◆ 諸国の民へのミッション（*missio ad gentes*）のために働くこと。

また、管区間の協力は何か新しいことを目指さなくてはなりま

せん。管区間の協力を既存の活動や仕事を継続するための手段と考える傾向がありますが、それは危険です。

本会への帰属意識を強め、励ましてくれる管区間の協力には以下のことが含まれます：

- ◆ **貧しい、あるいは弱体化した管区（構成単位）の面倒をみること。**それは、自力では存続できない管区だからです。
- ◆ **手放すことのできない場所、特に「宣教者的な」兄弟共同体で生活を続けるために、人員、あるいは他の形態の支援を必要とする本会の兄弟共同体に責任を持ち、それを支えること。**

4) 合併の途上にある諸管区（構成単位）

- a. **さまざまな管区（構成単位）間の合併プロセスの理由及び目標は、明確にされ、理解される必要があります。**
- b. **そのようなプロセスは、進行性の病の結果とかネガティブなプロセスとして見てはならず、むしろ、より大きな協力の新たな可能性として、フランシスカン生活とミッションの再生として捉えるべきです。剪定の目的は、その土地でフランシスカニズムを若返らせ、実り豊かなものにするためなのです。**
- c. **同様のプロセスは、時のしるしによりよく応えるという緊急の必要性から生まれるものでなくてはなりません。つまり、今ここにフランシスカンのカリスマを根付かせるため、そして、より本物で意味のある生き方をするた**

めであるべきです。そして、さらに、意味のある未来に備えようとする意志から生まれるものでなくてはなりません。

d. 合併のプロセスが成功するためには、以下のことが必要です：

- ◆ 状況が必要とすることに応え、私たちのカリスマに従って、重要な選択を行うことができるよう、焦ることなく、しかし、休むことなく進めること。
- ◆ プロセスに気付き、共通の選択を行うことができるよう、すべての兄弟、特に兄弟共同体の修道院長が関わること。
- ◆ このプロセスに関わりのある管区（構成単位）が本会の未来像を描けるように、兄弟たちの人数、年齢、体力、そして全般的に感じていることについて社会学的な調査をすること。
- ◆ どの活動の場を維持し、廃止し、新設するのかを具体的に選び出すこと。この選択は、再構築と内部刷新の手順を決めた後で、そして、実際の合併が行われる前になされなくてはなりません。
- ◆ 兄弟たちが互いをよく知るために、生涯養成、霊操、幕屋の集会などに関する集まりを兄弟間でもつこと。
- ◆ 初期及び生涯養成、一般の人々への宣教企画、召命のための司牧的かわり、J P I Cなどの重要な分野において共同で取り組むこと。
- ◆ 合併の決定は、関係する管区（構成単位）のすべての兄弟と正式な話し合いをしたうえで、管区会議で行わ

れること。また、そうした正式な話し合いの結果は、総長と総理事会に報告され、その最終決定を待たなくてはなりません。

- ◆ プロセスは、管区長とその理事会から構成される世話役またはグループが支えること。
- e. 管区長協議会はこの考察の過程に参加し、所定の場所にフランシスカンの存在と働きがあるように配慮しながら提案するように求められています。
- f. プロセスがうまく進んだら、総長は、適切と思われる時期に、新しい構成単位を設立するまでの最終段階を同伴する総長代理を任命することができます。

略語

LSR＝「主は道々私たちに話してくださる」（２００６年臨時総集会総括文書）

BGG＝「福音の賜物の使者」（２００９年総集会総括文書）

SAG＝「福音からの再出発」（２０１０年－２０１５年、６年間の刷新計画の手引き）

再編と再構築：小さき兄弟会総理事会による指針
フランシスコ会日本管区
２０１１年６月１３日